

臨床研究に関する情報公開（一般向け）

「横浜市における、3次医療機関に搬送されたフレイル・多疾患併存状態にある高齢者を、

住居近隣の中規模病院が後方転院で能動的に受け入れる診療モデル（TURN-BACK

Yokohama project）の開発と評価」へご協力をお願い

—西暦 2025 年 4 月 1 日～西暦 2028 年 3 月 31 日までに当科において当院へ後方転院搬送で入院診療を受けられる方へ—

研究機関名 JCHO 横浜保土ケ谷中央病院

研究代表者・責任者 総合診療科 八百 壮大

研究分担者 総合診療科 志水 健太、毛利 直人、患者サポートセンター 馬場裕子

個人情報管理者 総合診療科 八百 壮大

1. 研究の概要

1) 研究の意義 人口 372 万人を超える横浜市において、年間 25 万件以上となる救急搬送の中で、高齢者救急が増加しています。各病院の応需体制によっては、居住エリアと隔絶された高次医療機関に軽症～中等症の方が入院し、ケアが分断されてしまうことがあります。地域包括ケアの時代においては、住み慣れた地域での生活に戻るために、包括的な退院支援を行う必要性があり、居住区近隣の地域密着病院がその役割を担う意義は大きいです。一方で、医師の働き方改革の推進が求められる中で、夜間や祝日の救急体制については、高次医療機関に頼らざるを得ない場合もあります。

2) 研究の目的 市の救急医療体制の中で、住み慣れた地域とは異なるエリアの 3 次医療機関へ搬送となり入院となったご高齢な方に対し、治療やリハビリテーション、社会リソース活用などのケアマネジメントを、可能な限り早期に後方転院で受け入れる病院間連携を強化するプロジェクトを推進し、効率的な退院支援を行っているかどうか検証することを目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者：3 次医療機関から治療の継続やリハビリテーション等の目的で当院へ転院する方

2) 研究期間 西暦 2025 年 4 月 1 日～西暦 2028 年 9 月 30 日(3 月 31 日までの入院)

3) 研究方法 観察研究

4) 使用する試料の項目 試料は使用しません

5) 使用する情報の項目 年齢、性別、居住区、基礎疾患、主病名、Clinical Frailty Scale、在院日数、処方薬剤数、退院先、30 日以内の再入院の有無等を測定します。

6) 情報の保存 インターネットにつながないコンピューター端末で Microsoft Excel ファイルにデータベースを作成し保存します。

7) 情報の保護 施錠された部屋にてコンピューター端末を管理します。本研究以外の用途でデータベースを利用することはありません。

8) 研究資金源及び利益相反に関する事項 JCHO 調査研究事業として必要経費の研究助成を得て実施します。利益相反のある企業等はいっさいございません。

9) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についてお分かりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究はあなたのデータを個人情報かわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が 研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、西暦 2028 年 9 月 30 日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様の不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

所属 氏名：総合診療科 八百 壮大

電話：病院代表 045-331-1251（平日：9 時 30 分～17 時 00 分） FAX 045-331-0864

初版：2025 年 4 月 1 日

第二版：2025 年 12 月 18 日